岡崎市図書館交流プラザ図書館システム

溝呂木信之*　河盛一郎*
加藤正和*　服部幸一**
前田剛志*

Library System for The Okazaki City Library and Community Plaza

Nobuyuki Mizorogi, Masakazu Katou, Takeshi Maeda, Ichirou Kawamori, Kouichi Hattori

要　旨

岡崎市図書館交流プラザ(Libra：りぶら)は，“図書館”“市民活動支援”文化創造”交流”の４つの機能を融合させた複合施設で，建物の基本設計から企画運営まで市民参加型の活動によって推進されたプロジェクトである。

岡崎市立中央図書館は，2008年11月のLibraオープンに合わせて旧中央図書館からLibra内に移設され，延べ床面積は3.2倍の8,000m^2，蔵書数は約2.3倍の100万冊(開館当初は，約60万冊)に拡張された。

新しい図書館システムでは，日本トップクラスの図書館にふさわしい質の高いサービスを手軽に利用できるように，“自動貸出し装置”自動出納書庫”自動仕分機”無断持ち出し防止装置”等の機器導入や“AVブースセルフ予約”等のシステム化を行った。また，郷土資料や洋書の検索利便性向上，ホームページのリニューアル化を新たに実現した。

これらの機器導入やシステム化が，利用者の利便性を高め，図書館員の業務スピードアップや負荷軽減等，作業効率の向上をもたらした。

システム化には，バーコードを用いた本の管理からICタグを用いた本の管理に切り替えることが不可欠であり，新システム導入に合わせて実施した。これによって，各種業務のスピード化やオペレーションの簡素化を果たすことができた。今後更にICタグを用いた新機能構築に取り組み，ハイブリッド図書館としての機能を充実させていく。

岡崎市立中央図書館のホームページ：
http://www.library.okazaki.aichi.jp/

岡崎市図書館交流プラザ図書館システムの新規サブシステム

岡崎市立中央図書館では，Libraオープンに合わせ従来のバーコードを用いた資料の個体識別管理から，ICタグを用いた個体識別管理に移行している。ICタグへの移行によって，新機能の各種サブシステムが実現され，利便性向上及び図書館規模拡大に伴うコスト増を抑えることができた。さらに“ハイブリッド図書館”を目指して，所蔵している作品のデジタル化を行い，原資料の保護と利用促進効果を高めるデジタルアーカイブを新規機能として実現した。

*三菱電機インフォメーションシステムズ㈱　**岡崎市立中央図書館